資料４

令和７年度

犬山市観光戦略会議

施策別シート

犬山市観光戦略　施策別シート

重点プロジェクト名	1　遊園ルネサンス
高めるもの・方向性	景観・インフラの整備（ハード施策）
チャレンジする施策	憩いの場、滞在の場としての内田地区木曽川河畔整備（社会実験から実装へ）

施策の取り組み

内田地区の河畔空間を高質化するとともに、古くて新しい観光スポットとして、そして市民にとっても憩いの場となることを目指し、魅力ある河畔空間の整備に向けた取組をR4年度より継続している。R6年度には「犬山市かわまちづくり推進協議会」を立ち上げ、本協議会で意見を得て「犬山市かわまちづくり計画」を作成してR7年8月に国土交通省に登録された。実証事業としては地域住民とともに実証事業を展開しており、R7年春期には「河畔 de おためし大作戦 2025」として竹あかりを設置。

犬山市かわまちづくり推進協議会

宵のカタリーヴァ（水鉄砲の射的）

柿狩り＆犬山朝市へ出店！

「河畔 de おためし大作戦 2025」で設置した竹あかり

取り組みの総括

- 犬山市かわまちづくり推進協議会
  令和6年度に協議会を全3回開催し、かわまちづくり計画に記載する内容を議論した。

- 宵のカタリーヴァ　R6.8
  水鉄砲を使った射的・大きなしゃぼん玉の体験ブースを運営　2日間で延べ260名が体験。

- 柿狩り＆犬山朝市へ出店！　R6.11
  地元で収穫した柿を「River to Summit 2025」の開催時に犬山朝市で販売。

- 河畔 de おためし大作戦 2025　R7.3 - 4
  全長約200ｍの区間で竹あかりを設置、冬場における新たな魅力創出を目指した。

今後の展開（予定）

- **犬山市かわまちづくり計画の推進**
  市、事業者、住民及び河川管理者が連携協力して概ねR8年～R12年の5カ年で整備を進めることで「日本一美しい河畔」を目指す。
  整備分担　国土交通省　親水護岸（階段護岸）・堤防盛土
  犬山市　遊歩道再整備　等

- **各種実証事業の継続実施**
  地元住民など河畔に関わる人達との関係性を深め、河畔に必要な機能の把握と実践、地元と調整しながら整備に向けた機運を高めることを目的に今後も継続していく。

犬山市観光戦略　施策別シート

重点プロジェクト名	1　遊園ルネサンス

取り組み状況

犬山市かわまちづくり計画　パース図　（内田地区）

宵のカタリーヴァ　　R6.8

大きなしゃぼん玉体験

水鉄砲で射的

柿狩り＆犬山朝市へ出店！　　R6.11

脚立で登って柿を収穫

犬山朝市へ出店して柿を販売

河畔 de おためし大作戦 2025　　R7.3 - 4

地域住民との「竹あかりワークショップ」

遊歩道の両端には竹のアーチを設置

犬山市観光戦略　施策別シート

重点プロジェクト名	2　日本ライン再発見ルート
高めるもの・方向性	景観・インフラの整備 （ハード施策）
チャレンジする施策	栗栖の自然環境を活かしたアクティビティサイトの整備と充実

施策の取り組み

栗栖園地は木曽川河川敷内の広大な芝生広場であり、普段からキャンプ利用等で親しまれている。R2年度に国土交通省により園地南部分の竹木伐根が実施されたことを契機に、R4年度から園地拡張工事(芝貼り）を実施し3カ年目を実施。増水の影響を受けつつも事業継続し、景観向上と園地拡張により利活用や地域活性化を目指している。

芝張り 実施前

芝張り 実施後

参加者への説明時

役割分担をして作業を行う

取り組みの総括

本事業の財源にはあいち森と緑づくり都市緑化推進事業を活用し、栗栖園地利用者へ現地での受付時に参加を呼び掛けることに加え、桃太郎発展会を中心とした地域住民と市職員の延べ人数73名が協働して芝張りを実施。R6年度では芝生エリアを1,303㎡拡張した。

芝張り(拡張）の実績

令和4年度	令和5年度	令和6年度	**合計**
2,250㎡	1,260㎡	1,303㎡	**4,813㎡**

今後の展開（予定）

木曽川の河川敷内という自然の状況を見極めつつ、あいち森と緑づくり都市緑化推進事業を活用して今後数年芝生エリアを拡張していく。

また、R6年度に「犬山市かわまちづくり計画」で栗栖地区も対象箇所として計画を策定し、R7年8月に国土交通省に登録された。今後は将来にわたっても栗栖園地を持続可能かつ適正に管理できるような仕組みを作り、親水空間の充実・地域経済活性化を実現したいと考える。そのため、同計画においても記載しているが、河川敷地占用許可準則で定められている「都市・地域再生等利用区域」の指定を受けた上で管理団体の認定を目指し、引き続き関係機関との協議・検討を進める。

犬山市観光戦略　施策別シート

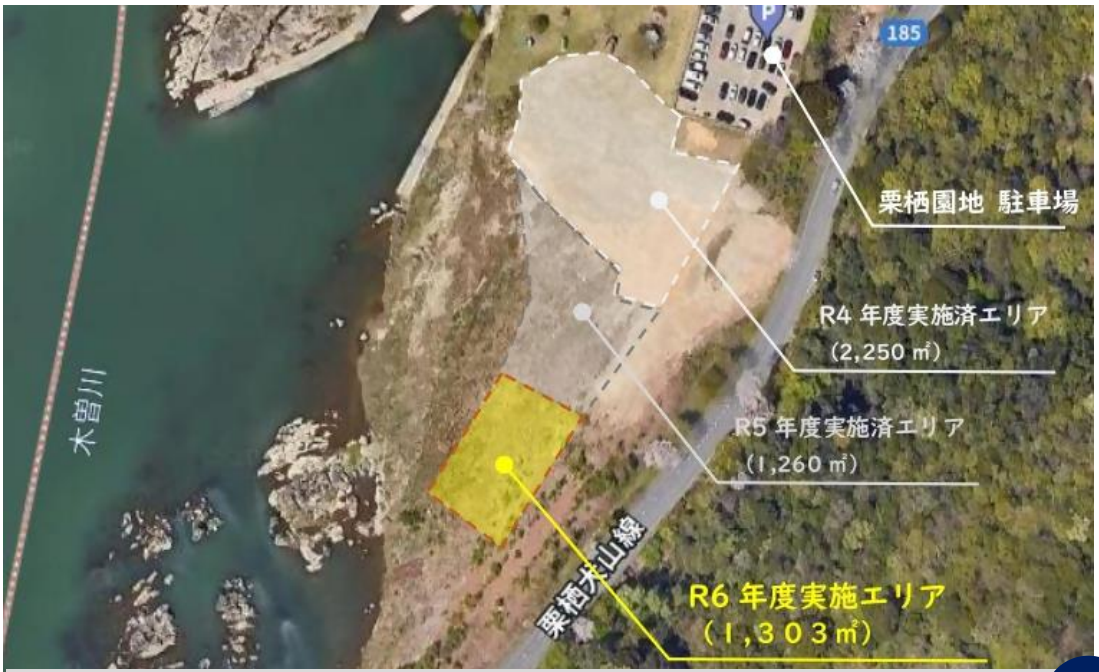
重点プロジェクト名	2　日本ライン再発見ルート

取り組み状況

犬山市かわまちづくり計画　パース図（栗栖地区）

芝生を一輪車で運搬

名古屋経済大学の学生も参加



芝生エリアの全体図

犬山市観光戦略　施策別シート

重点プロジェクト名	3　城下町景観・環境レベルアップ
高めるもの・方向性	市民とともにある観光（市民参画・交流・関係人口・多様な参画）
チャレンジする施策	本町通りの在り方再構築（屋外広告物、ゴミ・音・においなどの環境）、目指す姿とまちのルールづくり

施策の取り組み

本町通り周辺には多くの来訪者がある一方で、ゴミ・音・混雑などの課題が生じている。地域住民と観光客の共存と調和を図るため、受入体制の充実を図るため各種取組みを実践・継続している。仮設休憩所とゴミ箱の設置、手持ち看板によるマナー啓発、環境整備員の配置、住民用臨時駐車場確保等の取組みを行い持続可能な観光地を目指す。

福祉会館跡地にテント等を設置

交通誘導警備員の手持ち看板によるマナー啓発

環境整備員による城下町の清掃活動

北小学校での住民用 臨時駐車場

取り組みの総括

この施策は観光庁の「オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業」を一部財源として活用している。課題は多様であり本質的な解決は直ぐには成し得ないが、出来ることから実践していくことが重要と考えている。取組み内容に関しては今後も更なる工夫は必要であるものの一定の効果があると認識している。また、来訪者に対しては「犬山観光ナビ」へSDGs犬山観光のページを新設のほか、観光リーフレットにマナーアップの記事を掲載するなど、意識啓発の取組みも始めている。

今後の展開（予定）

来訪者・地域住民が共存・調和した観光地づくりを目指し、引き続き必要な取組みを粘り強く実施していく。犬山観光全体の課題を的確に捉えた上で、混雑時期や新たな課題など、現場の状況に応じて適切に対応して取り組んでいく。また各種プロモーションやコンテンツ造成等において平準化・分散化につながる施策を推進することも重要であり、取組みを進める。

犬山市観光戦略　施策別シート

重点プロジェクト名	3　城下町景観・環境レベルアップ

取り組み状況

臨時駐車場を周辺住民へ開放

城下町の各所へごみ箱を設置

満タンになったごみは環境整備員が回収

道路上のごみ拾いも実施

「犬山観光ナビ」にSDGs犬山観光を新設してマナー啓発を実施

観光リーフレットに掲載した観光客向けのマナー啓発

犬山市観光戦略　施策別シート

重点プロジェクト名	3　城下町景観・環境レベルアップ
高めるもの・方向性	市民とともにある観光（市民参画・交流・関係人口・多様な参画）
チャレンジする施策	本町通りの在り方再構築（屋外広告物、ゴミ、音・においなどの環境）、目指す姿とまちのルールづくり

施策の取り組み

城下町の課題を共有した上で改善の取組みを実践する為に、犬山商工会議所、犬山市観光協会、犬山まちづくり(株)、犬山市の4者により「SDGs観光まちづくり会議」を月1回開催し検討を進めている。課題の一つに事業者間の繋がりが生まれづらい状況にあることから、事業者同士の意見交換や交流、R7.1とR7.7に「SDGs観光まちづくり交流会」、R7.8には「犬山ひんやりプロジェクト」を実施した。

SDGs観光まちづくり交流会の様子

交流会には毎回30名以上の事業者が参加

暑い夏を乗り切ろう！ワークショップ

R7.8には城下町へ氷柱を設置

取り組みの総括

4者による「SDGs観光まちづくり会議」を月1回程度と頻度高く開催し、課題を共有した上で具体的な取組みを検討し実践している。会議の実績としてR6.10「インバウンドワークショップ」、R7.1とR7.7に「SDGs観光まちづくり交流会（懇親会）」、R7.6に「暑い夏を乗り切ろう！ワークショップ」などを開催し、多くの事業者の参加を得ることが出来た。参加者からは好意的な反応が多く、事業者同士の情報交換も含めた交流の機会は重要であるとあらためて認識した。

今後の展開（予定）

今後もSDGs観光まちづくり会議は定期開催し、課題の改善の為の取組みを継続実施していく。事業者同士の繋がりが深くなることで強い地域を形成することに資すると捉えており、今後も交流や情報交換、共通の学びの機会を設けるよう努める。将来的には、事業者同士の緩やかな繋がりがあり、地域全体で連携し課題の改善に取組むことが出来る持続可能な観光地づくりを目指す。

犬山市観光戦略　施策別シート

重点プロジェクト名	3　城下町景観・環境レベルアップ

取り組み状況

SDGｓ観光まちづくり会議　交流会　R7.1、R7.7

事業者間の交流機会を創出

R7.7は38名が参加

犬山ひんやりプロジェクト　R7.8

暑さ対策について意見を出し合う

城下町の各所へ氷柱を設置

店舗でも氷柱の設置に参画

参加店舗は約20店舗となった

本町通りで打ち水も実施

観光客が氷柱に触れて涼を感じる取組み

犬山市観光戦略　施策別シート

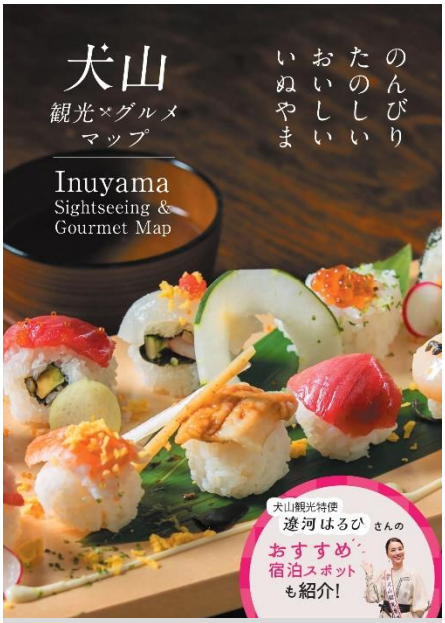
重点プロジェクト名	6　クロスオーバー資源開発
高めるもの・方向性	滞在・体験型観光 （宿泊施設の充実＆多様な体験コンテンツ提供）
チャレンジする施策	ナイトタイムエコノミーの充実・宿泊施設との連携・犬山観光特使就任による犬山PR・インナーブランディング（郷土愛の醸成）他

施策の取り組み

滞在・体験型観光を進め消費と宿泊を伸ばすため、宿泊施設との連携は重要である。令和5年10月に犬山観光特使へ就任した遼河はるひ氏との取り組みを拡充させており、ホテルインディゴ犬山有楽苑での限定ランチメニューのほか、ランチイベントや「犬山観光グルメマップ」の再編を実施した。令和6年12月には観光WEBサイト「犬山観光ナビ」のリニューアルを実施。犬山城・観光駐車場の待ち時間の視認性を高めたことに加えて犬山観光のイメージ向上を目指す。

遼河はるひ氏が監修したロコモコランチ

犬山観光ナビ リニューアル



犬山観光グルメマップ

取り組みの総括

犬山市観光戦略の主要な目的は宿泊者数を伸ばし消費を高めることである。

そのため宿泊施設との連携は必須であり取組みを強化する必要がある。犬山観光特使である遼河はるひ氏を起用した取り組みの充実化を図ることで、効果的で強力な観光PRに繋がるものと期待する。また、「犬山観光ナビ」のリニューアルによりネット上で情報を的確に調べることが出来るようになり「SDGs犬山観光」のページを作成したことで訪れる人のマナー啓発や動画制作も実施。そのほかナイトタイムエコノミーを拡充のために夕食時にどのような店舗があるか分かりづらいという声に応え、市内事業者との連携によるグルメマップを作成した。

今後の展開（予定）

市内宿泊施設と連携できる機会や取組みを確実に広げていくことで、犬山観光の魅力を向上させ、滞在時間を伸ばして消費を高め宿泊者数の増加に繋げていきたい。現在犬山観光特使は遼河はるひ氏・田村淳氏の２名となっている。遼河氏には田村氏とは別の視点とアプローチで犬山観光を盛り上げていただけることを今後も期待する。

犬山観光ナビに掲載している情報を適宜見直していくことで時期や情勢に適した情報を随時発信して観光客が市内の観光情報を把握しやすい体制を構築していく。

犬山市観光戦略　施策別シート

重点プロジェクト名	6　クロスオーバー資源開発

取り組み状況

遼河はるひワンデイランチイベント 「ようこそ犬山へ」

犬山観光特使 田村淳氏も様々なメディアでPR

犬山観光ナビでは犬山城天守待ち時間、駐車場の混雑具合が確認可能

犬山観光グルメマップでは食事の他に宿泊施設も紹介

犬山市観光戦略　施策別シート

重点プロジェクト名	6　クロスオーバー資源開発
高めるもの・方向性	滞在・体験型観光（宿泊施設の充実＆多様な体験コンテンツ提供）
チャレンジする施策	季節ごとに異なるコンテンツ・体験イベントの実施

施策の取り組み

観光地の魅力向上には季節ごとに異なるコンテンツの充実が重要である。体験型観光コンテンツをまとめて楽しめる企画「思い出できすぎ＃犬山体験」を春休みと夏休み時期に開催した。また初夏(6月)・冬（2月)には花手水（はなちょうず）を展開し城下町の新たな魅力づくりに努めた。撮影セミナー「犬山でポートレイト」を年4回開催し、全国から参加者が集まった。

ainiを活用して体験メニューを紹介

フラワーゼリー作りなど多様なメニューがある

犬山城下町に設置した花手水

「犬山でポートレート」の撮影風景

取り組みの総括

「思い出できすぎ＃犬山体験」はR6年度でメニュー数33件（うち新規4件）、 延べ293人の参加があり、観光客が人との新しい繋がり・発見の場として 個性豊かな体験を通して、犬山の魅力を発見できる機会を提供した。閑散期の観光コンテンツ充実も視野に花手水（はなちょうず）を初夏と冬に実施した。花手水の取組みに参画する事業者や神社等も増えており将来は大きな展開となることを期待している。「犬山でポートレート」では市内の観光資源を活かした撮影会を実施。写真展も実施しており、R6年11月にSONYストア名古屋、R7年6月1日-R7年8月31日に犬山観光案内所にて展示している。また、市内における取組みとして、ホテルミュースタイル犬山エクスペリエンスで「時津風部屋　朝稽古見学＆ちゃんこ鍋付き　特別宿泊プラン」の販売、善師野伏屋では竹あかりを活用した「INUYAMA YOI NO MICHI」が開催された。

今後の展開（予定）

観光コンテンツの充実は観光地の魅力向上や価値の高まりだけでなく、季節ごとに異なる魅力を提供することで観光客の分散化・平準化にも繋がると考える。また観光コンテンツにおける担い手の増加は、観光に関わる市民が増えることで観光施策推進の理解を深めるとともに、支援・参画者を増やすことにも繋がるため取組みを継続していく必要がある。

犬山市観光戦略　施策別シート

重点プロジェクト名

6　クロスオーバー資源開発

取り組み状況

犬山祭のわらじ作り

サンキャッチャー作り体験

彩り豊かな花手水を設置

閑散期のコンテンツとして充実化を図る

SONYストア名古屋で写真展を開催

犬山観光案内所で写真展を開催

時津風部屋での稽古風景

善師野伏屋にある竹林の中で竹あかりを活用

犬山市観光戦略　施策別シート

重点プロジェクト名	6　クロスオーバー資源開発
高めるもの・方向性	資源発掘・創造ブランド形成（ソフト施策）
チャレンジする施策	犬山祭がつなぐ観光まちづくりの推進 ナイトタイムエコノミーの充実

施策の取り組み

本市には長い歴史と魅力を有する催事が多くあり、その中でもユネスコ無形文化遺産である犬山祭や夏の風物詩である日本ライン夏まつりロングラン花火などは毎年多くの来訪があるとともに、市民からも親しまれ愛されている。イベントとしての回数を重ねてブラッシュアップすることで犬山観光の価値とブランド力を高め郷土愛の醸成に繋がると考える。R6 - 7年度も工夫と改善を重ね魅力あるイベントとなった。

取り組みの総括

R7年4月に開催された第391回犬山祭では、夜車山（よやま）13輌が城前広場に集結して観光客が集中することに備えて車山の配置を見直したことにより、迫力と魅力ある催事となり来訪者と祭関係者の満足度が向上した。

R7年8月に10日間連続で開催した第46回日本ライン夏まつりロングラン花火では、市内企業等から協賛金を募って全91社より協賛を得た。また、同時に開催した宵のいぬやマルシェには各日15店舗超の出店があり催事に賑わいをもたらすこととなった。

今後の展開（予定）

犬山祭、ロングラン花火ともに、来訪者及び市民が楽しみ、愛着を持つ大規模で魅力的な催しとなっている。今後も安全な運営が最重要であり、その前提の上で魅力的でチャレンジングな取組みを模索していくことになる。関係機関、団体、警察等との連携と協力を得ながらその時点での最適な内容となるよう、細心の注意を払い進めていく必要がある。

犬山市観光戦略　施策別シート

重点プロジェクト名	6　クロスオーバー資源開発

取り組み状況

第391回 犬山祭　　R7.4

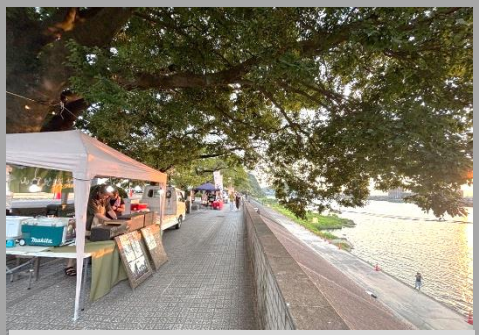
城前広場に車山が集結

トイレ・ごみ箱を設置して受入体制を強化

夜車山の点灯時には観覧客が集中する

交通規制を行って駅前通りも賑わう

第46回　日本ライン夏まつりロングラン花火　　R7.8



飲食ブースなど約20店舗が出店

様々な店舗が出店し花火と共に魅力を向上

現地には読み取り式のアンケートも設置

民地側での出店状況も配慮しながら運営

犬山市観光戦略　施策別シート

重点プロジェクト名	8　広域連携
高めるもの・方向性	広域連携による周遊観光の構築（市外連携型の観光コンテンツ提供）
チャレンジする施策	県内～東海～中部～全国など圏域ごとの連携強化　（名古屋市・県内自治体・各務原市・木曽川流域・昇龍道） 城・木曽川などテーマに即した広域連携とコンテンツ造成　（国宝五城・木曽川中流域・尾張藩） リニア中央新幹線開業を意識した広域連携推進　（首都圏・関西圏・インバウンドを意識した誘客）
施策の取り組み	圏域及びテーマに即した広域連携とコンテンツ造成を進めている。犬山城は本市の重要かつ強力なコンテンツであり、来訪動機の強い観光誘客に繋がると考え国宝五城でのPRに注力した。また「木曽川流域」という繋がりで周辺自治体と連携することにより地域全体の魅力向上に資する取組みを進めた。木曽川を挟む各務原市との共同での取組みとして高質化した屋形船を用いて催事を実施した。さらに名古屋鉄道(株)による「なごや圏」という枠組みでの広域連携も行うなど市単独では成し得ない取組みが促進された。
取り組みの総括	犬山の主要な観光資源である「城」に注力した広域連携や「木曽川」をテーマとした取組みは有効であった。市単独では成し得ない広域で大規模な宣伝・取組みを展開した。
今後の展開（予定）	各種協議会での取組みへ積極的に参画することで、観光客への宣伝・PR及び他自治体などとの連携強化につなげていく。 また、遠方からの観光客やインバウンドが増加していくことに対応できるよう、より効果的な宣伝・誘客のスキーム、受入環境整備を検討・実践していく。

国宝城郭都市観光協議会

木曽川中流域観光振興協議会

犬山・各務原広域観光推進協議会

Co-machi 観光推進会議

※ 名古屋鉄道HPより引用

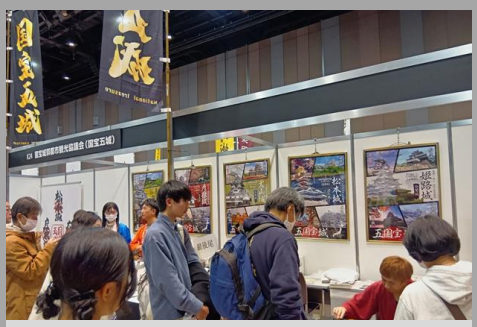
犬山市観光戦略　施策別シート

重点プロジェクト名

8　広域連携

取り組み状況

国宝城郭都市観光協議会



ブースでは御城印が人気となる

輪投げ体験やパンフレットを配布

木曽川中流域観光振興協議会

犬山朝市は正午まで時間を延長して開催

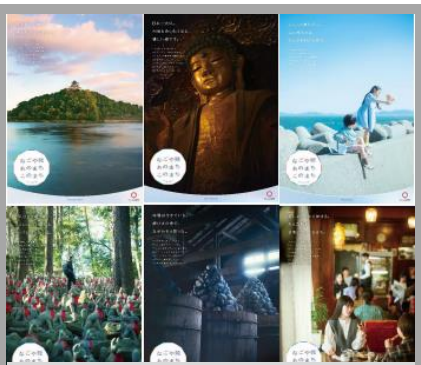
対岸への渡し船を特別に運航

犬山・各務原広域観光推進協議会

木曽川の対岸同士で活性化を図る

遊覧船を活用して開催

Co-machi 観光推進会議



名鉄主導の元、愛知の魅力向上へ

※ 名古屋鉄道HPより引用

犬山市観光戦略　施策別シート

重点 プロジェクト名	その他
高めるもの・ 方向性	域内循環型の観光産業確立
チャレンジ する施策	新たな財源獲得検討（税、利用料、寄付、クラウドファンディングなど）

施策の取り組み

市内観光駐車場で時期により異なる使用料を設定し、観光駐車場周辺の混雑緩和への効果検証、歳入の増加を図るため、R6年11月より駐車場料金に特定日を設けた。
また、ふるさと納税型クラウドファンディングで木曽川鵜飼の支援を募った。

キャッスルパーキング（最大収容台数 約150台）

内田観光駐車場（最大収容台数　約380台）

取り組みの総括

- **観光駐車場における特定日の設定**
  R6年11月より普通自動車の駐車料金を　300円/時間　⇒ 500円/時間とする特定日を年度内で21日間設けたことで導入前と比較して7,986,500円の収入増となった。

- **木曽川鵜飼のふるさと納税型クラウドファンディング**
  R6年8月－12月の5カ月間に寄附を募ったことで、目標金額50万円のところ84万円の寄附を受けることが出来た。

今後の展開（予定）

特定日の設定により、混雑緩和への影響を確認するとともに、財源確保の効果も検証していく。また、クラウドファンディングに限らず多様な手法を用いていくことで財源の確保に努めていくことで持続可能な観光地づくりを目指す。